

資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 00130-7-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

高松宮記念ハンセン病資料館一周年記念シンポジウム らい予防法改正問題をめぐって

欠陥法は共通認識 参加者二百人を超す

ハンセン病を正しく理解する週間の六月二十五日、午後一時三十分全生園コミュニティセンターにおいて資料館開館一周年記念シンポジウム「らい予防法改正問題をめぐって」が開催されました。講師は▼大谷藤郎(藤楓協会理事長・ハンセン病予防事業調査検討委員会委員長)

スターと全患協(松丘、東北、栗生三名、菊池)の代表、厚生省関係者

▼中谷瑾子(大東文化大学法学部教授、慶応義塾大学)

名譽教授)▼村上国男(全

国立ハンセン病療養所長

連盟会長、多磨全生園園長)

▼高瀬重二郎(全国ハンセ

ン病患者協議会会長)の四

名で、司会は成田稔(資料

館運営委員長、多磨全生園

名譽園長)でした。

会場には新聞記事の影響もあってか、

開演間近には次々と参加

者がつめかけ外部の人の記

帳は一二三名入園者を入れ

ると二〇〇名を超えました。

参加者の中には所長連盟

(松丘、東北、駿河、長島、

邑久、星塚)及び神山のシ

ン

ン

ン

ン

ン

ン

三名もおりました。

大阪、神戸、横浜、千葉

あり、職業別では看護協会、

日赤の看護大学、昭和病院、

好善社、真宗大谷派、曹洞

宗、宗務庁、皓星社、コロニ

印刷、日患同盟、東京弁

士協会、回復者の会、国

障年をすすめる市民の会、

東村山市緑を守る市民協議

会、共同通信社、読売の記

者など多方面に亘っており、

予防法への関心の高さを示

しております。

各講師の発言内容は全患

協ニュース(七月一日付)

特集号に掲載されますので

省略しますが、いずれも現

行法は人権無視の悪法で、

欠陥が多く改正が廃止すべ

きだが、そのためには入所

者の現状の処遇保障が先決

であるとの共通の認識が示

されました。その後、会場

の十人の方から「終生隔離

撲滅政策を推進した当時の

所長たちは歴史的な事実を

総括し、贖罪をすべきだ」

「予防法は快復者の外来診

療には逆効果」「将来、地域

の障害者がハンセン病施設

を利用することはできない

か」「こういうシンポジウム

を全国津々浦々で展開する

必要がある」など、活発な

意見や質問があり、四時三

十分終了しました。



開館一周年を迎えるにあたって

館長 大谷 藤 郎

昨年六月二十五日に高松宮妃喜久子殿下、三笠宮寛仁親王同妃信子両殿下の三宮様をお迎えして落成式を行い、開館をいたしました。から、早くも一周年を迎えることになりました。新聞にとりあげていただいたり、口から口へと伝わって、五月十九日には見学者一万人を突破いたしました。

これ一重に応援を賜りました多磨全生園および全国療養所に在園の方々、その他関係の多数の方々の有形無形のご奉仕、ご支援のお蔭であります。厚くお礼を申し上げます。見学した若い方々からは、ハンセン病を知らなかった、過去百年

以上にわたってこんな差別・迫害が行なわれていたことを知らなかった、考えさせられたという率直な感想がよせられています。また、ハンセン病問題に関心をよせ研究や出版をされる方々も出てきました。知られなかった事実の発掘も期待されます。

ハンセン病の百年の歴史は、人間がいかに誤ちを犯すことがあるか、誤ちが組織化されたときに善意の普通の人間もいつの間にか少



二階展示室を見る来館者

数者に対する加害者となり得ることがあるのだなどさまざまな人間の根源にかかわる問題を提起するものであり、反省を迫るものです。ハンセン病資料館はそれの具体的事実を皆さんの前に

一年間をふり返って

関心を呼び戻すイベント

開館一周年を迎えた資料館のこの一年間の経過をふり返って見たいと思います。

提示し、「障害者と共に生きる社会」の実現を目指す人々とともに考え歩んでいきたいと願っています。考える拠点の一つであり続けたいと願っています。宜しくお願いいたします。

先ず入館者数ですが、月金、祭日が休みでしかも午後一時から四時までという短い開館時間にも関わらず、入館者延数は一万一〇四六人に達し、関心の深さを示しております。

開館日数二六一日で割ると一日の平均来館者数は、四二人で、このうち団体は一三七で

団体の主なものは看護学校、宗教関係、婦人団体、福祉関係、一般学校などです。来館者は北海道から九州沖縄まで全国に亘っており、韓国、中国、イギリスなど外国の方も見えております。次に資料館開催の主なイベントを記します。

- ①全生園のみどりを考える展、看護学校主催。10月5日より30日まで
- ②「病醜のダミアン」像の展示。県立埼玉近代美術館より借用。11月1日より12月20日まで
- ③陶芸、籐細工、編物展、医局リハビリテーション科主催。11月4日より12月5日まで
- 一九九四年
- ④母娘遍路像開眼式。真言宗智山派東京北部九カ寺の僧侶による開眼法要。1月20日、以後一階ロビー展示
- ⑤阿部正英第三回パスカル画展。外国、日本の風景画42点、2月8日〜29日まで
- ⑥公開セミナー「ハンセン病について」講師 成田稔多磨全生園名誉園長、参加者五九人、4月1日
- ⑦全生園、復生病院、昔むかし写真展、開院から戦前までの建物、生活、作業、宗教、行事など83点、4月20日より30日まで
- ⑧シンポジウム「らい予防法改正問題をめぐって」と田村大三、静海夫妻の指笛と歌の慰問。6月25日

以上ですが、いづれも大勢の来館者があり、新聞記事の影響の大きさを再認識しております。

来館者の声

作品に驚きと感動

医療の原点を感じる

●教員 42歳 女性

素晴らしい建物、展示品、

今日は時間がなくゆつくり見られませんでした。昔多くの方々が苦しみ、差別されていたことが——今世の中が変わりこのように開かれたものになったことに喜びを感じます。皆が支え合

って生きてゆく社会であってほしいです。私は小川正子さん出身の甲府高女(第二高等学校)の後輩です。●会社員 45歳 男性

まいった。病状の特徴、治療、感染ルート、原因等わかりやすく表示すると良いと思う。唯々まいった。

●看護学校生 20歳 女性

もつとゆつくり見たかったです。患者さんの立場になつて考えられる、母でもあり、妹でもあり、何でもありのナースになれるよう

頑張ります。

●主婦 29歳 女性

ハンセン病の方々のご苦労が生々しく伝わってきました。彼らの心より所や楽しみもわかりました。また病のために貢献した方々の存在も知りました。

●無職 70歳 男性

まことに素晴らしい。長年に亘る患者さんたちの脈々と闘病に生きぬくさまに驚嘆する。

●主婦 38歳 女性

もつと本当は深刻な状態であつたはずで、こんなにかいにしてあると現実とかけはなれて、その時の人の苦しみがあまり伝わってこないように見られます。もつとかくさず、ありのままを見せていただきたいと

存じます。

●小学生 11歳 女性

マネキンがこわかった。ぎ足がこわかった。古いものがいっぱいあつてすごいと思つた。かわいそうと思つた。

●医師 45歳 男性

ハンセン病の治療には医療の原点が感じられる。私たちの病院の職員にも見せてあげたい。

●60歳 女性

青森(松丘)の滝田氏からは是非見に行くように言われて来ました。楽泉園にも愛楽園にも知人がいるので大変なつかしく拝観しました。館内は美しく受付の皆さんも親切にして下さり、心から感謝しております。

●71歳 男性

驚きと悲しみと感激などで胸一杯、作品の見事なこと、これも驚きと感動! 出来る限り多くの人々に見て戴きたい。

●教員 33歳 女性

一年前、開館直後に来たものです。その時、ハンセン病そのものと社会の差別

に関する資料をもつと充実させてほしいと思つた記憶があります。今日久しぶりに訪れて展示資料が少し増えていたのを見て嬉しく思いました。それから全くの偶然なのですが、丁度全生園の昔の写真展をやつて

いたことは幸運でした。百聞は一見にしかず、当時の生活や苦労を知るには、どんなに長い説明文よりも効果的だと思います。特設展といわず、ぜひ常設展示の中にこれらの写真を入れて下さい。お願い致します。今日は教え子たちをつれてきました。これからもこの資料館のことをできる限り宣伝するつもりです。

北条民雄著

『いのちの初夜』発行

資料館では開館一周年を記念して、東京創元社のご諒解を得て、希望の多い北条民雄著「いのちの初夜」を百部製本し発売することになりました。定価は四百円です。

開館一カ年間の入館者状況

	開館日数	入館者数	1日平均	団体数	団体人数
1993年6月	5日	488人	98人	1	12人
7月	23日	1,418人	62人	11	409人
8月	22日	773人	35人	14	193人
9月	21日	808人	38人	17	532人
10月	25日	1,228人	49人	21	804人
11月	22日	1,125人	51人	11	391人
12月	18日	606人	34人	13	316人
1994年1月	16日	288人	18人	3	30人
2月	20日	843人	42人	8	368人
3月	24日	459人	19人	4	126人
4月	23日	1,497人	65人	14	418人
5月	19日	800人	42人	13	352人
6月	23日	713人	31人	7	277人
計	261日	11,046人	42人	137	4,228人

一万人目の入館者に 花束を贈呈

入館者は多い時は一日に百人、二百人、少ない時は数人ということもあり、果して一万人目は何日だろうと話合っておりましたが、五月十九日午後二時「新聞で写真展の記事を見て来た」という、八王子市の中年の

—前略—見学を通して幾百年の間、ハンセン病という重荷を背負い乍ら身体が病むばかりでなく、社会から迫害を受け続けたという事実を知りました。資料館の中に再現された男子寮の一室では、人権を無視されて劣悪な環境の中で、生活を営んできた人々の叫びが今にも聞こえてきそうでした。ましてや平沢様が実際に経験されたという

ご婦人、西巻牧子さんが一万人目に入館しました。成田運営委員長より花束



と、資料館発行の書籍等を記念に受け取った西巻さんは「幸運でした。展示品をよく見て理解を深めたいと思います」と語っておりました。

団体等の交流会

資料館では七月のイベントとして、難病・精神障害者団体等の交流会を計画しました。

期日・七月十日(日)
10時30分～15時30分
場所・資料館研修室

参加者は①全国精神障害者家族連合会②稀少難病者全国連合会(あせび会)③東村山市なんてんの会④同けやき会⑤同身患連⑥全思協⑦全生園入園者自治会などで、大谷館長、成田運営委員長も参加することになっております。

仏像の寄贈

四月十八日、邑久光明園の宮下金治さんが資料館のために製作された彫刻の仏像三体が、邑久自治会を通じて



じて資料館に送られて参りました。彫刻像は、一、聖観世音菩薩立像、素材・三葉楓、二、不動明王、素材・カイツカイブキ、三、聖観世音菩薩立像、素材・米松でいずれも見事な作品です。昔・むかし写真展と共に一階研修室に展示しておりましたが、七月より二階に展示します。

信 看護についで 来 考える良い機会

かと思われま

何も知らない私達に当時の社会背景とハンセン病の歴史を自分自身を通して来館者に伝えてい

何もなかったように話されているように感じましたが、そこを通るたびに当時のつらかった日々を思い出さずにはいられないのではない

とを考えると、胸中ほどのようなものかと思ひ、はかり知れません。お話の説得力があり、生きることは何かということ

を改めて考える良いチャンスとなりま

気のある中でハンセン病を知ること、看護について考える良い機会となりまし

た。私達もできる限りこの資料館については他の人々

に伝えていきたいと思ひます。平沢様のおっしゃった「生きることは死ぬことより難しい」という一言の重みを考え「生きる」とは何かということを常に問いかけ、この研修で得たことを、これからの看護にも生かしていきたいと思ひます。

—後略—

市立函館病院高等看護学院
第42回生代表 池田 尚子

◎あながき

シンポジウムが予想外の成功で関係者一同ほっとしている。いずれ内容は小冊子にまとめる予定。二階の一部に写真展示の模様替えを計画中。(佐川)